■委員会活動状況■

コンクリート委員会

Concrete Committee

土木学会コンクリート委員会は，昭和3年9月に「コンクリート調査会」として発足した委員会で，今日，土木学会にある委員会の中でも，大正3年に設置された「土木学会誌編集委員会」に次ぐ，非常に長い歴史をもった委員会である．この委員会は，コンクリートに関する調査・研究等の総括的な処置をする唯一の機関として常置されているが，名称は知っていてもどのような活動が行われているかは必ずしもすべての会員に知られていない．そこで，今回は特にこの委員会の歴史も含めて，現在そして将来の活動方向等について，土木学会の資料に基づきまとめて紹介する．

1. コンクリート委員会の歴史

コンクリート委員会の歴史は，まさにわが国における

表—1 コンクリート委員会の変遷

年	委員会		示方書類
	S. 3年		
昭和5年	コンクリート調査会		S. 6年 鉄筋コンクリート標準示方書
			同上 解説
		大河戸宗治 委員長	
昭和10年	S. 11年		S. 11年 昭和11年鉄筋コンクリート標準示方書
			同上 解説
		S. 14年	
昭和15年	コンクリート調査委員会		S. 15年 昭和15年鉄筋コンクリート標準示方書
			同上 解説
			S. 18年 同示方書解説改訂
			無筋コンクリート標準示方書
昭和20年			
	S. 23年		
		吉田徳次郎 委員長	S. 24年 昭和24年コンクリート標準示方書
昭和25年			S. 25年 昭和24年コンクリート標準示方書解説
	コンクリート委員会		S. 26年 同示方書および解説改訂
昭和30年			S. 30年 プレストレストコンクリート設計施工指針
			S. 31年 昭和31年コンクリート標準示方書および解説
	S. 33年		S. 33年 同示方書および解説改訂
昭和35年	コンクリート常置委員会	S. 35年	
			S. 36年 プレストレストコンクリート設計施工指針改訂
	S. 37年		
昭和40年			
			S. 42年 昭和42年コンクリート標準示方書および解説
昭和45年			
		國分 正胤 委員長	S. 47年 鉄筋コンクリート終局強度理論の参考
	コンクリート委員会		S. 49年 コンクリート標準示方書および解説
昭和50年			
			S. 52年 同示方書および解説改訂
			S. 53年 昭和53年プレストレストコンクリート標準示方書
昭和55年			S. 55年 同示方書および解説改訂
			S. 56年 コンクリート構造の限界状態設計法試案
		S. 57年	
		樋口 芳朗 委員長	S. 58年 コンクリート構造の限界状態設計法指針（案）
昭和60年			

土木分野のコンクリート技術の進歩・発展と歩を同じくしてきたといっても過言ではない．今日でこそコンクリートは土木材料の最も重要な位置の1つをしめているが，表—1に示すように「コンクリート調査会」としてこの委員会が設置された当時，現在のような一定の示方もなく，各所任意にコンクリート施工を行っていたにすぎなかった．そこで，この委員会は，まずその統一を目的として示方書の作成を手がけた．

最初に公表された示方書は，昭和6年の鉄筋コンクリート標準示方書で，解説も同年公表されている．その後，同委員会は「コンクリート調査委員会」に改組され，この示方書の改訂を行うと同時に，新たに昭和18年には無筋コンクリート標準示方書を学会誌に発表し，今日の無筋および鉄筋コンクリート標準示方書の基礎がつくられた．

戦後，一時中絶の形となっていた委員会を「コンクリート委員会」として昭和23年に再発足させ，昭和24年度制定コンクリート標準示方書および同示方書解説が作成された．その後，数回の示方書改訂および制定が行われ，委員会名も変化したが，昭和37年からは示方書の改訂作業は小委員会で行うこととし，「コンクリート委員会」は広く斯界の調査・研究等の総括的な処置をとる機関として常置することに改められた．

コンクリート委員会の示方書改訂以外の活動として，コンクリート工学の発展に伴い幾多の小委員会を設置し，専門的に調査研究を進めているが，講演会，講習会，シンポジウム等の開催，指針作成，コンクリート関係の材料の規格化，用語・記号の統一化なども実施している．さらに，昭和36年以来，コンクリートに関する専門的な研究論文，小委員会の調査研究結果，シンポジウムの発表論文などをとりまとめ，コンクリート・ライブラリーとして出版することにし，現在，その第54号までが発刊されている．

2. コンクリート委員会の現状

コンクリート委員会は，現在総数108名の委員からなっており，その委員の中から常任委員を選出し，常任委員会が設けられている．この常任委員会の委員の多くは，小委員会の委員長でもあるため，小委員会間の情報交換，調整等も実施されている．

本委員会に直接所属する小委員会は，現在，表—2に示すように計14あるが，任務の終了した小委員会の解散や新たに設けられる小委員会の発足があるため，一定数の小委員会等が常設されているわけではない．しかし，

表—2　コンクリート委員会に所属する小委員会

（昭和59年6月現在）

コンクリート委員会（委員長：樋口芳朗）
・常任委員会（委員長：樋口芳朗）
・コンクリート標準示方書改訂小委員会（委員長：樋口芳朗）
・コンクリート規準関連小委員会（委員長：小林一輔）
・フライアッシュ研究小委員会（委員長：國分正胤）
・鉄骨鉄筋コンクリート研究小委員会（委員長：尾坂芳夫）
・英文ライブラリー刊行編集小委員会（委員長：岡村　甫）
・鉄筋継手工法小委員会（委員長：国分正胤）
・人工軽量骨材コンクリート小委員会（委員長：村田二郎）
・コンクリート施工研究小委員会（委員長：村田二郎）
・コンクリート現場練り施工指針小委員会（委員長：西沢紀昭）
・エポキシ樹脂塗装鉄筋に関する研究小委員会（委員長：小林一輔）
・スラグ小委員会（委員長：小林正几）
・PC 合成床版工法に関する研究小委員会（委員長：渡辺　明）
・アンダーソン工法小委員会（委員長：津野和男）

これらの多くの小委員会で得られた成果は，示方書，指針，シンポジウム等の形で会員に公表され，多くはコンクリート・ライブラリー等の出版物としてすでに公刊されたもの，今後公刊されるものもある．

現在ある小委員会の中でも，最も多くの委員を擁するのは「コンクリート標準示方書改訂小委員会」であり，昭和60年制定予定の標準示方書作成作業を実施している．他の小委員会でも，指針作成等の作業を実施していることから，会員からの意見等があればコンクリート委員会宛連絡することも可能である．

3. 今後の方針

コンクリート委員会の今後の方針について，樋口委員長は，「今までわが国は多くのものを諸外国から取り入れてきたが，一例としてコンクリートの引張試験方法のように，今後は逆に輸出できるような新しい考えに基づいたものについての調査・研究等を実施して行きたい．しかし，そうは言っても，急激な変化を求めると種々の混乱をきたすため，例えばコンクリート標準示方書の場合にも，許容応力度法と限界状態設計法を併用する方法などを考えている」と語っている．

今後，科学・技術の進歩や時代の要求によって本委員会の方向も大きく変化する可能性もあるが，わが国のコンクリート工学の発展のための指導的役割を期待して，コンクリート委員会の紹介を終わらせていただく．

（文責：魚本健人／*Taketo UOMOTO*／論文編集委員会幹事）